



お仕事ファイル

by 小学生記者

教材の編集担当者

＜目指すには＞ 教材を手がける一般的な会社の場合、多くの人が大学や大学院を卒業して就職します。入社時に特別な資格は必要ありませんが、著作権など、編集に役立つ勉強をする人も多いそう。Kさんは、誰もが見やすい色づかいの知識を問う「色彩検定」のユニバーサルカラー級に合格しています。

国語や算数などの勉強で使う教材や問題集。「ドリル」と呼ばれ、学校の授業や宿題で使われているのではないのでしょうか。実は、文字のレイアウトや表紙のデザインなどに学びやすくなるような工夫がされています。岐阜県羽島市にある教材の企画や制作を手がける「文溪堂」の編集部で働く K・M さん(26)に、小学生記者がオンラインで取材。教材が子どもたちの手に届くまでの流れや、仕事にける思いなどを聞きました。

「この一冊にはたくさんの工夫があります」。Kさんが6年生用の教材「漢字ドリル」を開き、4人の小学生記者たちに説明を始めた。学校を通して子どもたちに配られるドリルなどは1年を通して使われることが多く、「ぱっと見て、取り組みやすい」と思ってもらえるかが大切。Kさんは「漢字を載せる時、1とめ・う漢字を載せる時、1とめ・はね・はらい」などがはつきり分かるように文字の形や大きさを考え、ページ全体の色づかいにも気を配ります。そして、その漢字を使った例文にもこだわります。「例えば『砂』なら、『砂場で遊ぶ』」

「頑張れそう!」を届ける

のよう、子どもたちが普段の生活や学校の授業でなじみのある文にしています」と話しました。

文溪堂は教材や問題集のほか、書道セットや裁縫セットなど小学校の授業で使われる道具、デジタル教材などを幅広く企画し、販売しています。教材を手がける編集部は教科ごとのチームに分かれ、Kさんは国語の担当。ドリルやテスト問題のほか、書写ノートなどを編集しています。

研究者にも相談 学年ごとに工夫

見ながら、内容に間違いがないか、見やすい色になっているかなど、ページ全体を細かく確認します。印刷前にこうした作業を繰り返し、一冊の教材ができるまでに半年ほどかかります。教科書や学校で習う内容が大きく見直された時は、教材もそれに合わせる必要があります。数年かかることもあるといいます。

Kさんは「子どもの発達段階に合わせ、学年ごとに教材の作り方は変えていきます」とも教えてくれました。教科書の内容を踏まえるのはもちろん、例えば2年生で使う教材は、6年生用に比べて漢字を書く大きさを大きくしたり、言葉と言葉の間にスペースを入れて読みやすくしたりしています。

①教材の仕上がり具合を確認する Kさん=岐阜県羽島市で
②教材の編集に使う Kさんの仕事道具。文字の大きさを測るシートや蛍光ペン、「消せるボールペン」などがある



原稿は別の会社できれいにレイアウトされ、商品になる前の「ゲラ」と呼ばれる紙を

K・M さんの〈原点〉

大学時代は学習塾でアルバイトをし、ボランティアで外国にルーツを持つ子どもに日本語を教える機会が多く、「誰一人取り残されないよう、より学びやすいものを届けたい」と、教材に関わる仕事に就きたいと考えました。



Kさん(上段左)にオンラインで取材する小学生記者

教材には、世界的に有名なキャラクターのイラストが添えられたものもあり、記者たちの興味はそこにも向きました。Kさんから「アンケートの結果も参考に、多くの子どもに知られていて、勉強の意欲が上がりそうなキャラクターを選んで」との説明を受け、身近な教材の魅力を再発見しました。

（構成・山本克也）
次回は12月14日

取材ノート

名古屋市・(6年) スケジュールの管理は私も苦手で。将来、満足のいく仕事ができるように、ドリルで計画的に学ぶことから始めたい。

名古屋市・(6年) レイアウトや例文など、ドリルに詰まった工夫を知りました。細かい所まで目を通すことで、教科の理解が深まりそう。

名古屋市・(6年) 長い年月をかけて教材をつくる時、私たちが問題を解きやすいよう、思っていた以上に考えられていると知りました。

岐阜県各務原市・(6年) 勉強への意欲が上がるよう、ドリルに使うキャラクター選びにも力を入れていると聞き、驚きました。

小中学生記者を募集

お仕事ファイルを中心とした中日新聞社の取材体験に参加する小学生、中学生を随時募集し

ています。対象は小学5・6年、中学1～3年の児童、生徒。登録や詳しい説明はQRコードから。

